

皆さんお元気ですか。

2017年8月の出来事を綴っています。ご覧くださいませ。



8月3日、JICAの青年隊員と一緒に、自宅からバスで2時間ほど行ったところにある温泉に行った。温泉と言っても温水プール、冷水プール、そして、サウナがあるだけだった。まず、温水プールに入ろうとしたが、熱くて入れない。また、温水プールの水は胸くらいまであり、ゆっくり腰を下ろすこともできない。久しぶりに、日本の温泉気分に浸りたかったが、甘かった。狭い冷水プールに浸っていたが、しばらくしたら子供たちが入ってきて、ゆったりした気分にもなれなかった。サウナは、太ったおじさんとおばさんが窮屈そうにベンチに座っているのを見て、すぐにでた。諦めてあずま屋の下でボーっと時間をつぶして、帰宅した。そしたら、熱中症のような症状になり、この日は、一日中気分が悪かった。早く日本に帰って、ゆっくりと温泉に入りたい。



8月10日。オメテペ島に行った。マナグア市の南東にあるニカラグア最大の湖、名前もニカラグア湖で、その湖に浮かぶ島がオメテペ島である。この島には、2つの火山がありその周りを車で半周した。この日は、曇りであったが、この島を遠くから見ているときは、雲に覆われて見えなかったが、幸運にもこの火山に近づくにつれ雲があがり、火山の麓から山頂までよく見ることができた。驚いたことに山麓の平野には、ゴマが栽培されていたことだ。そして、それは、日本への輸出用だとのこと。ニカラグア人はゴマを食べないそうだ。その他には、たばこ、パイナップル、トウモロコシ、バナナの畑が広がっていた。この島ではコーヒーも栽培しているとのこと。海岸の砂は黒々としていて、湖水もあまりきれいとは言えなかった。しかし、久しぶりに、市内の騒音から離れて、ニカラグアの自然にふれてストレスを解消できた。



8月12日、合気道演武をするために、バスでエステリという町まで行った。マナグアから地方に行くためにローカルバスに乗るのだが、いつものことだけど、バスは乗客でいっぱいだ。通路も乗客でいっぱいだ。運転手は乗客のことは何も考えてなく、耳をふさぎたくなるような大きなスピーカ音を鳴らして走っている。停留所に止まると、行商人が乗り込んできて、通路の乗客を押しつけて、大きな声を張り上げながら、物を売る。リンゴ売り、トウモロコシ売り、カシパン売り。乗客は通路を譲ろうともしないし、また文句も言わない。不思議な国だ。日本なら考えられない。普通、物売りは車窓の外から乗客に声をかけるのに。さらに驚いたことには、下半身が不自由な子供が、通路を這うようにして入ってきて、お金を乞う。その前に、聖書を持った牧師風の男性も通路で説教していた。この牧師は、下半身の不自由な子供には何もあげなかった。この牧師は、偽物かもしれない。



8月13日、朝 WhatsApp で Juan さんが昨日死亡したメッセージを見た。メッセージを発信したのは、彼の息子だった。死因は、アルコール中毒らしい。以前にもアル中で緊急入院して、生死をさました経験をしたのに、また同じことを繰り返した。彼の友人は、キッと彼は死にたかったのではないのかなあと saying いた。Juan は、離婚して一人住まいで私の家の近くに住んでいた。この国の一人暮らしの人は、どのようにして逝くのかと思った。Juan の遺体は、病院から彼の息子と元の妻に引き取られ、教会には行かなくてそのまま埋葬されたとのことだった。日本のようにお通夜や葬式などはないのだろうか。故人の友人や親せきなどが集まることはないのだろうか。Juan の合気道仲間は、だれも入院したことも知らなくて、WhatsApp で知ったとのことだった。Juan は、元 JICA 研修生として日本にも来たことがあり、日本で合気道を稽古した。帰国しても専門の(地震学)仕事がなく、観光ガイドなどをしていた。私の道場にもたまに稽古に来ていた。こちらの人は、みんなアミーゴと親しそうに言うが、本当はみんな孤独な人生を送っているのではないかと思う。だから、この国は大家族が多くて、あまり他人のことは気にしないのではないか、と思う。



8月15日、日本はお盆である。この日、スーザン・キン先生の勲章伝達式（勲章；旭日双光章）に招待されて、日本大使公邸に行った。スーザン先生は、1989年、ニカラグアに合気道を広めた最初の女性だ。大使館の大広間に入ってびっくりしたことは、招待客はスーザンとスーザン先生に関わった当時の生徒たち10人だけだった。私は、合気道功労者以外にも受勲される方がいると思っていたが、誰もいなかったことには驚いた。スーザン先生がアメリカから移住して、大学の武道道場で合気道を開設されたのだが、その当時の苦労は並大抵ではなかったと思う。こちらの人のほとんどは、武道を戦うための術としてしか考えなくて、先生より強くなると男性はほとんど去って行ってしまった、とスーザン先生は当時このことを話してくれた。先生はニカラグアが大好きで、もうアメリカにも戻らない。一生をこの国で過ごすとおっしゃっていた。

